

二つの大地震

日本の国土面積は世界の約0.25%、海洋面積は世界の約1%ですが、世界のマグニチュード6以上の地震の約20%は、日本の周辺で起こっているといわれています。このように、地震は世界のどこでも発生するわけではなく、日本のようなプレートがしょうとつし、しずみこみを起こす地域に集中しています。大きな被害のあった阪神・淡路大震災と東日本大震災について調べ、兵庫県で、今後、どのような地震に備える必要があるか考えましょう。

兵庫県南部地震を起こした野島断層 (活断層型地震)

兵庫県南部地震は、1995(平成7)年に淡路島を震源地として発生し、6434人がなくなりました。大都市に近い陸地の真下で起こったため、家屋の「層破かい」、神戸市長田区で発生した大規模な火災などにより、多くの方が命や財産を失いました。

この地震は、淡路島の野島断層が動いて起こりました。六甲山は、このような断層の動きによりつくられてきており、この地震で12cm高くなったといわれています。一つの活断層は約1000年に一度大きく動くといわれています。



▲野島断層(写真提供 人と防災未来センター)



阪神・淡路大震災の被害

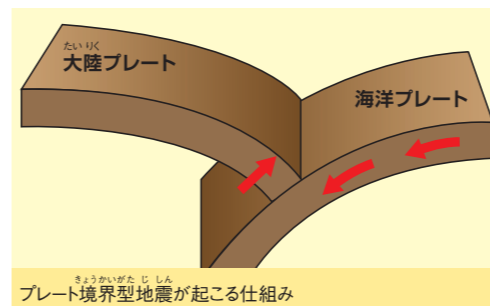
兵庫県南部地震では、強いゆれが20秒程度、弱いゆれもふくめると全部で40秒程度続いた。

なくなった方の約73%が
圧死・ちっ息死なんだよ。
大きな地震のためすぐに家屋がつぶれ、その下じきになったんだね。

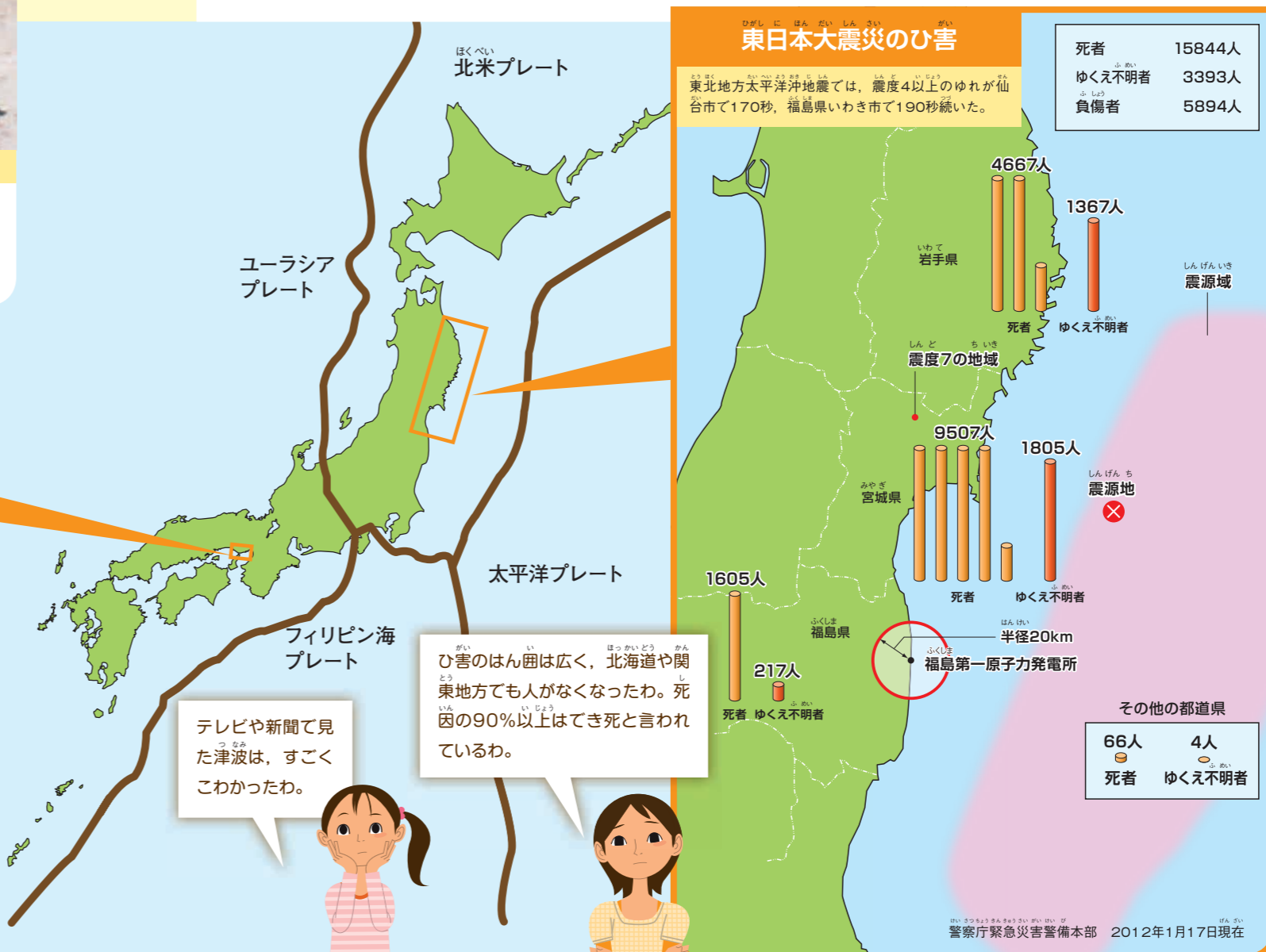
東北地方太平洋沖地震を起こした海底のプレート (プレート境界型地震)

東北地方太平洋沖地震は、2011(平成23)年に日本の東の海底で、長さ約500km、幅約200kmという広いはん囲を震源域として発生しました。東北地方の広いはん囲を10m以上の津波がおそい、なくなった人、ゆくえ不明になった人をふくめて約2万人にのぼりました。

また、地震やその後起こった津波のえいきょうで、福島第一原子力発電所で事故が起こり、放射性物質が放出されました。多くの方が避難し、不自由な生活を余ぎなくされています。



日本は、プレートの境界近くにあります。大地をのせたプレートは動いており、海の底にあるプレートの境目や、本州や淡路島にある断層にひずみのエネルギーがたまると、ときどきそれが解放されて地震が起こります。東北地方では、過去100年ほどの間に、明治時代と昭和時代にも大きな地震と津波におそわれました。

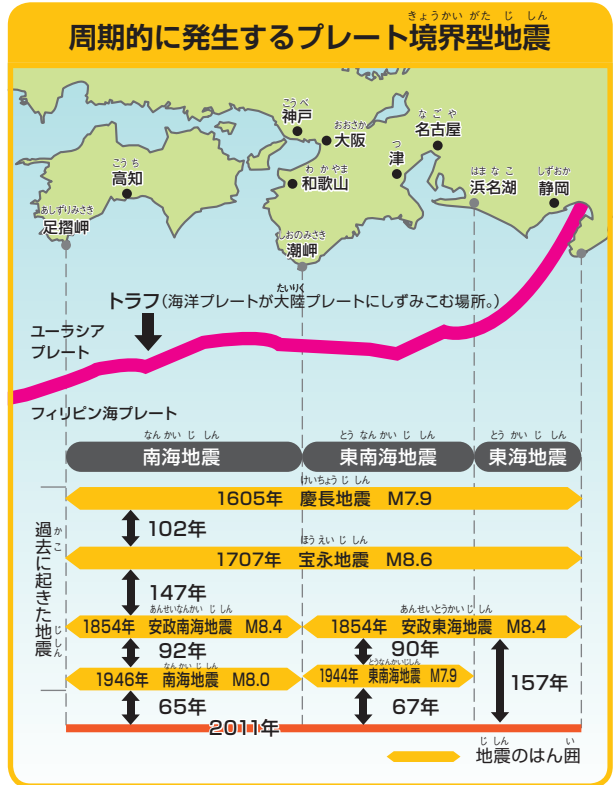


警察庁緊急災害警備本部 2012年1月17日現在

兵庫県活断層分布図とプレート境界型地震の歴史



今後、動くと考えられる断層を活断層といい、兵庫県やその近くにも数多くあります。

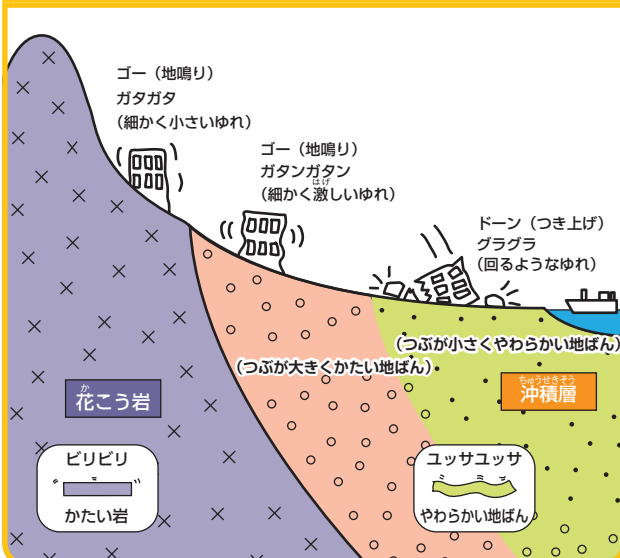


慶長地震はゆれが小さいのに大きな津波が来て、多くのぎせい者が出たといわれています。

土地の様子と災害

兵庫県南部地震で、震度7を記録したのは、断層の上ではなく、沖積層といわれるやわらかい地ばんの上でした。沖積層は、川の水などによって運ばれてきた土や砂などが、積もってできた土地です。

地ばんとゆれ



うめ立て地では

うめ立て地などのやわらかい地ばんの土地では、地中からどろ水が地面にふき出す、液状化現象が起きました。



(写真提供 神戸新聞社)